

環境経営レポート2018年度版

2018.05.01～2019.04.30

ver.1.2



発行日 2019年6月10日

紙から始めるコミュニケーション

株式会社長門屋商店

目次

1. 会社概要・対象範囲	1	③ 廃棄物の排出量	12
2. 当社の環境経営活動とSDGsの関わり	2	④ 環境対応商品の売上高	13
3. 環境経営方針	3	6. 環境啓発活動	14
4. 環境経営組織図	4	7. グリーン購入について	15
5. 環境経営目標実施要項の各目標と達成状況一覧	5	8. 環境関連法規	16
①-A 電力使用量	6～8	9. 中期環境経営目標設定(2019年度～2021年度)	17
①-B ガソリン使用量	9	10. 代表者の総括	18
①-C CO2排出量	10		
② 水使用量	11		

1. 会社概要・対象範囲

■会社概要

- ◆社名 株式会社長門屋商店
- ◆代表者 代表取締役 横溝純一
- ◆創業 1947年
- ◆設立 1953年
- ◆資本金 1,000万円
- ◆従業員数 21名(就業役員を含む)
- ◆事業内容 文具・紙製品の製造卸、小売業、賃貸業
- ◆事業所
 - 本社・小売事業部 東京都港区麻布十番1-5-25
床面積：173.73㎡
 - 東陽センター 東京都江東区東陽1-3-3
床面積：301.69㎡
- ◆環境管理責任者 営業2課リーダー 佐竹英幸

◆事業規模

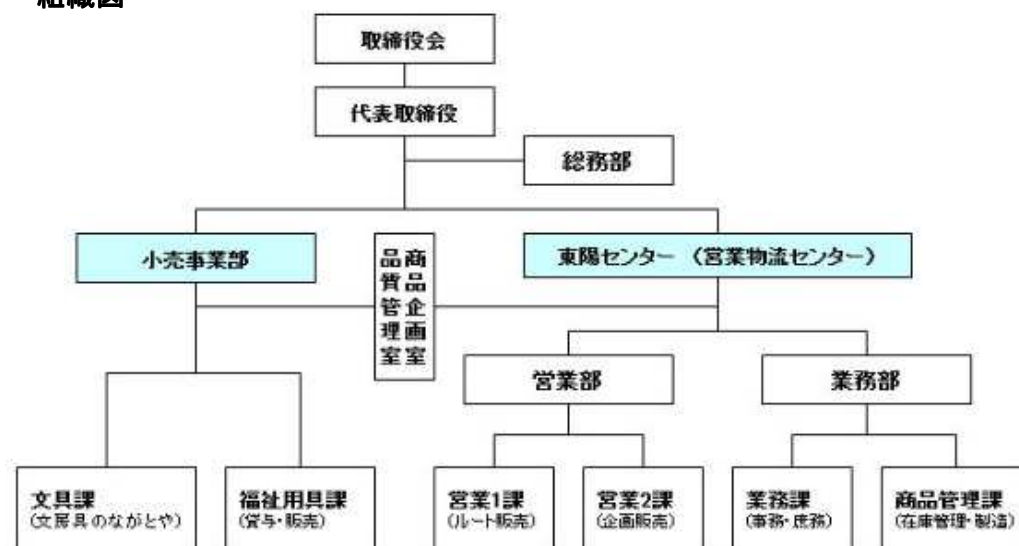
	2016年度	2017年度	2018年度
売上高(万円)	67,000	70,900	74,000

決算期末(6月)売上高

■対象範囲

- ①対象とする組織：全組織
- ②対象とする人員：全従業員
- ③対象とする事業活動：全事業活動

組織図



主力商品



プリンタ用紙



祝儀・その他文具

2. 当社の環境経営活動とSDGsの関わり(2019年4月現在)



目標4 「質の高い教育をみんなに」

- 公益財団法人オイスカ こどもの森計画支援
→P13, 14



目標14 「海の豊かさを守ろう」

- WWF 南西諸島プロジェクト支援(サンゴ礁保護)
- 海洋プラスチック問題への取り組み
→P13, 14



目標7 「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」

- クリーンエネルギー(太陽光発電)の利用
- 化石燃料によるエネルギー使用量の削減
→P6~8, 9



目標15 「陸の豊かさを守ろう」

- WWF 南西諸島プロジェクト支援(希少動物保護)
- グリーン購入法適合品の積極的利用
→P13, 14, 15



目標12 「つくる責任つかう責任」

- 廃棄物の分別・再利用を含めた削減
- 持続可能な製品の製造・販売に寄与する
→P12, 13



目標14 「パートナーシップで目標を達成しよう」

- (公財)オイスカ、WWFジャパンとのパートナーシップ
→P14



目標13 「気候変動に具体的な対策を」

- 地球温暖化対策としてCO2削減の取り組み
→P10



3. 環境経営方針

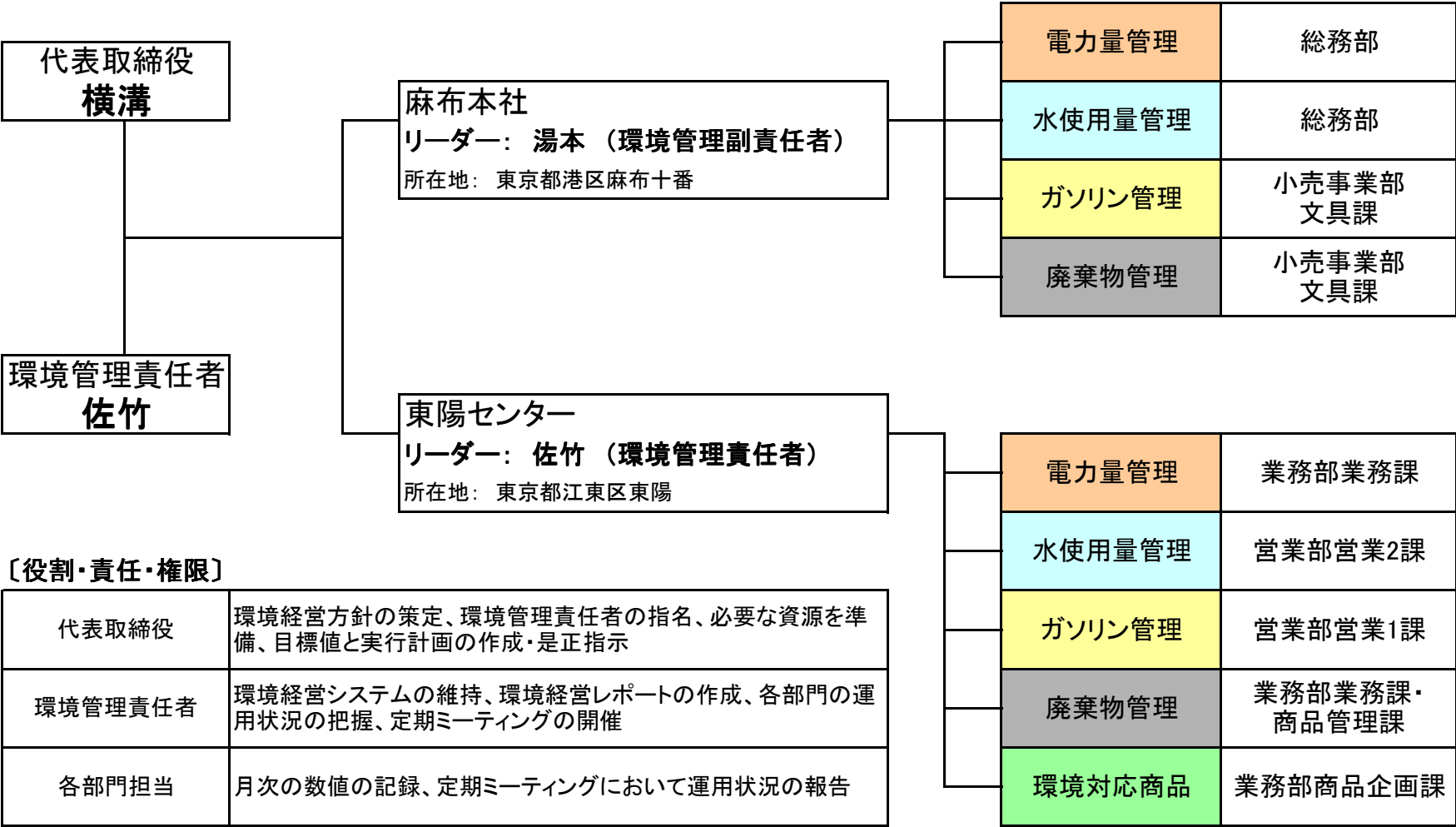
株式会社長門屋商店は、私たちの未来のため、持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現と継続的な環境負荷の低減を推進します。

1. 事業活動を通じて、環境マネジメントシステムを構築し、SDGsを見据えた社会的貢献を目指します。
2. 環境関連の法令・規則を遵守すると共に、ステークホルダーと協力的な関係を確立します。
3. 商品の製造から販売に至るまで『地球にやさしい』を追求し、環境負荷の低減に努め、以下を実施します。
 - a. 環境負荷の小さい主原料や副資材を積極的に調達し、製造・流通過程においても最大限の効率化を図ります。
 - b. 間接支援型環境商品の販売を通じて売上の一部を森林保護や海洋保全団体等の環境保護活動へ役立てます。
 - c. 小売事業においては、レジ袋削減をはじめとした『脱プラスチック』に取り組み、これを推進します。
4. 限りある資源の保全を目的に省エネ・省ゴミ活動を普遍的に継続し、企業価値及び文化的水準の向上へと繋がります。
5. 環境経営における目標・計画・実施状況については、全従業員に周知徹底すると共に、「環境経営レポート」として公表します。

改訂：2018年5月1日
制定：2006年11月01日

株式会社 長門屋商店
代表取締役 横溝純一

4. 環境経営組織図



5. 環境経営目標実施要項の各目標と達成状況一覧

実施事項	2017年度実績	2018年度実績	2018年度目標	目標達成状況
①-A 電力使用量	51,402kWh	<u>51,455kWh</u> 前年対比 +0.1%	<u>50,800kWh</u> (対2017年度-1.1%)	目標対比 +1.3% △
①-B ガソリン使用量	5,669リットル	<u>5,062リットル</u> 前年対比 -10.7%	<u>5,550リットル</u> (対2017年度-2%)	目標対比 -8.8% ◎
①-C CO2排出量※	34,637 kg	<u>32,064 kg</u> 前年対比 -7.4%	<u>34,000 kg</u> (対2017年度-1.8%)	目標対比 -5.7% ◎
② 水使用量	206m3	<u>211m3</u> 前年対比 +2.4%	<u>205m3</u> (対2017年度-0.4%)	目標対比 +2.9% ×
③-A 廃棄物の排出量 可燃ごみ・不燃ごみ（熱回収/埋立）	582.4kg	<u>497.6kg</u> 前年対比 -14.6%	<u>560.0kg</u> (対2017年度-3.8%)	目標対比 -11.1% ◎
③-B 廃棄物の排出量 プラ・古紙・ダンボール（再生）	4092.7kg	<u>4089.9kg</u> 前年対比 -0.1%	<u>3800.0kg</u> (対2017年度-7.1%)	目標対比 +7.6% ○
④ 環境対応商品の売上高	27,448万円	<u>27,438万円</u> 前年対比 -0.0%	<u>29,000万円</u> (対2017年度5.6%)	目標対比 -5.4% △

※CO2排出量使用排出係数：購入電力0.000475(t-CO2/kWh)・ガソリン2.32166(kg-CO2/l)

◎は設定目標達成 ○は設定目標に及ばずも前年実績より良化 △は前年実績並 ×は目標、前年実績ともクリアできず

環境経営目標実施要項①-A 電力使用量(その1/実績一覧)

SDGs該当項目⇒



本社ビル	2016年度	2017年度	2018年度
購入電力量(1)	29,857kWh	31,147kWh	28,524kWh
太陽光発電分からの社内使用量(2)	685kWh	678kWh	1,723kWh
実質電力使用量(1)+(2)	30,542kWh	31,825kWh	30,247kWh
前年比		104.20%	95.04%

東陽センター	2016年度	2017年度	2018年度
購入電力量(1)	13,007kWh	13,044kWh	14,237kWh
太陽光発電分からの社内使用量(2)	6,350kWh	6,533kWh	6,971kWh
実質電力使用量(1)+(2)	19,357kWh	19,577kWh	21,208kWh
前年比		101.14%	108.33%

全社合計	2016年度	2017年度	2018年度
購入電力量(1)	42,864kWh	44,191kWh	42,761kWh
太陽光発電分からの社内使用量(2)	7,035kWh	7,211kWh	8,694kWh
実質電力使用量(1)+(2)	49,899kWh	51,402kWh	51,455kWh
前年比		103.01%	100.10%



前年対比 **+0.1%**

※太陽光発電は従量電灯に接続しており、社内消費と相殺し、余剰分は売電しています。

環境経営目標実施要項①-A 電力使用量(その2/取組内容)

SDGs該当項目⇒



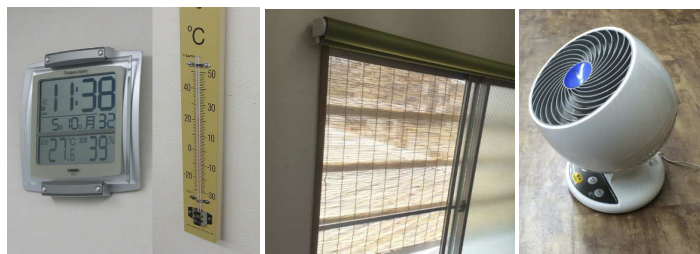
↑ LED電球およびLED蛍光灯



本社 ソーラー設備 9.8kw
(今期の年間発電量: 10876kWh)



東陽センター ソーラー設備 10kw
(今期の年間発電量: 11536kWh)



↑ 温度管理へのさまざまな工夫

■新規取組

- ◆東陽センターの作業場を外気の影響の少ない場所へ移設しました。移設にともない、よりこまめにスイッチが切れるよう配電を改変しました。(2018年5月～)
- ◆東陽センターの照明のLED比率を増やしました。

■継続取組

- エアコンとサーキュレータ・扇風機の併用等
- 事務所にすだれの設置
- 温度計を使用して室温管理
- 個別の消灯
- OAタップによる待機電流OFF

●月次電力使用量 (2018年5月～2019年4月)

		5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	年間
麻布本社	前年実績	2111	1918	2160	2762	2807	2123	2131	2309	3285	3847	3684	2688	31825
	当年実績	1970	1977	1941	2531	2830	2026	2105	2211	2939	3646	3153	2918	30247
東陽センター	前年実績	1030	1020	2025	1937	1872	1211	1322	1903	1825	2031	2011	1390	19577
	当年実績	1283	1320	2356	2214	1966	1416	1161	1742	1924	2157	1939	1730	21208
合計	前年実績	3141	2938	4185	4699	4679	3334	3453	4212	5110	5878	5695	4078	51402
	当年実績	3253	3297	4297	4745	4796	3442	3266	3953	4863	5803	5092	4648	51455
	前年比	103.57%	112.22%	102.68%	100.98%	102.50%	103.24%	94.58%	93.85%	95.17%	98.72%	89.41%	113.98%	100.10%

(単位: kWh)

環境経営目標実施要項①-A 電力使用量(その3/評価・次年度へ)

SDGs該当項目⇒



2016/6換装 小売事業部エアコン



2016/6導入 スポットエアコン

■今年度の評価

〔本社ビル〕

電力使用量において一番削減率が高かったのが店舗です。閉店後に残業をする場合でも、店内の電気を半分消すことを意識的に取り組みました。一番影響が大きいのはエアコンの使用時間だと考えます。毎年意識的に取り組んでいることではありますが、夏場は自動ドアを開け、冬場は逆に閉め、なるべくエアコンを使わないようにしています。気温に依るところが大きいので毎年状況は変わりますが、今季は特にエアコンの稼働時間が少なかったために電力使用量の大幅な削減につながったと考えます。また水を汲み上げるポンプを撤去したことも要因の一つです。

〔東陽センター〕

前年比8%の増加となりました。要因は2つ考えられ、ひとつは夏場の暑さによるエアコン使用の増加、もう一つは東陽センター改装に伴う設備増になります。設備増加の内訳はエアコン一台、LED照明9台になります。冬場はある程度室温が確保されたらエアコンをこまめに消すよう心がけた結果、増加を抑えることができました。



2018/5導入 新型LED照明(全9台)

■次年度へ

今年度は東陽センターの設備増の影響が出てしまい、使用量が増えてしまいましたが、麻布本社的大幅減により、微増に留まりました。次年度は今のところ増設は予定していないので、特に東陽センターの使用量が抑えられるよう夏場はエアコンを夕方涼しくなったら切る、冬場は昼間温かいときは切る、使っていない場所の照明は切る、定時以降は使用箇所を限定するなど、できることを積み重ねて削減の努力を引き続き行っていきたい。



2018/5完成 新作業室



2018/5導入 新作業室用エアコン

環境経営目標実施要項①-B ガソリン使用量

SDGs該当項目⇒



↑ ダッシュボードに表示

	2016年度	2017年度	2018年度
給油量	6,657L	5,669L	5,062L
前年比		85.16%	89.29%

前年対比 **-10.7%**

【参考】全車の年間走行距離と一台あたりの燃費

	2016年度	2017年度	2018年度
全車合計走行距離	83015km	64530km	54477km
前年比		77.73%	84.42%
一台あたり燃費	12.47km/L	11.38km/L	10.76km/L
前年比		91.26%	94.55%

■新規取組

◆ 運送会社を使用の配送を増やし、自社便での配送を減らすことによりガソリン使用量の減少を目指しました。

■継続取組

- 車内に「低燃費運転の心がけ」を貼り意識向上
 - ① アクセルワーク51%以下 ② アイドリングストップ
 - ③ エアコンは控え目 ④ タイヤの空気圧チェック
- 工場や仕入先などからの直送を増やし積載減

■評価・次年度へ

直接の配達を減らし、運送会社を使つての発送を増やした結果、走行距離が減り、ガソリン使用量の削減につながりました(約11%減)。
 ここ2年ほどでかなりの削減を達成し(約24%減)、これ以上の削減は難しいですが、次年度以降も引き続き低燃費運転を心がけていただくよう、進めて参ります。

環境経営目標実施要項①-C Co2排出量

SDGs該当項目⇒



CO2排出係数	使用数値
購入電力 (環境省HP/東京電力エナジーパートナー)	0.000475 t-CO2/kWh
ガソリン (EA21ガイドライン)	2.32166 kg-CO2/l

※2018年度の購入電力の係数は2018年12月27日公表値の実排出係数に拠ります。

全社合計		2016年度	2017年度	2018年度
本社ビル 購入電力	排出CO2	14,511kg	15,137kg	13,549kg
	購入量	29,857kWh	31,147kWh	28,524kWh
東陽センター 購入電力	排出CO2	6,321kg	6,339kg	6,763kg
	購入量	13,007kWh	13,044kWh	14,237kWh
全社ガソリン 使用量	排出CO2	15,455kg	13,161kg	11,752kg
	使用量	6,657L	5,669L	5,062L
排出CO2総量		36,287kg	34,637kg	32,064kg
前年比			95.45%	92.57%

【参考】

	2016年度	2017年度	2018年度
排出CO2原単位 (売上高百万円当り)	54.16 kg-CO2/万円	48.85 kg-CO2/万円	43.33 kg-CO2/万円
前年比		90.20%	88.69%

オフセット計算	2018年度
本社ビル 総発電量	10,876kWh
東陽センター 総発電量	11,536kWh
発電量合計	22,412kWh

※計測端末の値を引用

購入電力での排出量
⇒ 10,646kg 相当
購入分より差引 ↓

太陽光発電によるオフセット後の排出量 21,418kg

なお、昨年のオフセット後の排出量は 24,029kg でした。
(前年比約11%減)

前年対比 -7.43%

環境経営目標実施要項② 水使用量



本社ビル	2016年度	2017年度	2018年度
上下水道使用量	42m3	37m3	42m3
前年比		88.10%	113.51%

東陽センター	2016年度	2017年度	2018年度
上下水道使用量	166m3	169m3	169m3
前年比		101.81%	100.00%

全社合計	2016年度	2017年度	2018年度
上下水道使用量	208m3	206m3	211m3
前年比		99.04%	102.43%

■継続取組

- 雨水を貯水して清掃や洗車や植木の水やりに使用しています。
- 節水コマを取り付け流量を絞り、ムダを省くよう取り組んでいます。

■評価・次年度へ

〔本社ビル〕

水道使用量の増加理由は、居住者用のゴミ捨て場を清掃する清掃業者が変わり、清掃回数も増え、結果的に水をたくさん使うようになってしまったことによります。業者の方へ活動への理解と協力を求めています。

〔東陽センター〕

前年並でした。来年度は新しい社員が入ることもあり、あらためて水使用に関する意識の共有を図り、削減活動に取り組んで参ります。

前年対比 +2.4%

環境経営目標実施要項③ 廃棄物の排出量

SDGs該当項目⇒



↑ 合い紙の活用



↑ ダンボール再利用



↑ 計量用のスケール



↑ 3種の分別ゴミ箱を用意しています。

可燃ごみ・不燃ごみ（熱回収/埋立）

熱回収/埋立	2016年度	2017年度	2018年度
本社ビル	208.7kg	37.3kg	36.3kg
東陽センター	480.4kg	545.1kg	461.3kg
合計	689.1kg	582.4kg	497.6kg
前年比		84.52%	85.44%

プラ・古紙・ダンボール（再生）

再生	2016年度	2017年度	2018年度
本社ビル	1380.0kg	933.1kg	897.7kg
東陽センター	2377.0kg	3159.6kg	3192.2kg
合計	3757.0kg	4092.7kg	4089.9kg
前年比		108.94%	99.93%

■継続取組

- 合い紙の社内ドキュメントへ活用
- ダンボールの再利用
- 古紙やプラの分類回収
- ペーパーレスの促進
- ペットボトルとキャップの分別収集

■評価・次年度へ

〔本社ビル〕

大量の書類やカタログ、商品什器の廃棄が多かったのですが、なんとか目標を数%下回ることが出来ました。分別の取り組みに関して大きく変更した事はありませんが、裏紙やビニール袋を再利用するような、基本的な努力が結びついた結果だと考えます。

〔東陽センター〕

熱回収については前年は改築工事があった関係で例年より増加していたので、例年並となり大幅に改善されました。再生については昨年比微増となりました。課題であった分別の意識については、分別表示のわかりやすさに取り組んだ結果、進んでいるように見受けられます。引き続きの取り組みを進めて参ります。

環境経営目標実施要項④ 環境対応商品の売上高

SDGs該当項目⇒



売上の一部を(公財)オイスカへ寄付している
「カラーペーパー」シリーズ



グリーン購入法適合用紙
「環境紙G80」シリーズ



売上の一部をWWFジャパンの南西諸島
保全へ寄付している「美彩紙」シリーズ

■対象商品

- 売上の一部を環境保全団体に寄付している。
- 原料に廃材や再生材を使用している。
- 非木材原料を使用している。

■評価・次年度へ

ほぼ前年並の微減でした。環境対応商品の新商品が実質無く相当苦しい状況でしたが、一部顧客で既存品の新規取扱を開始したため、前年並まで盛り返しました。
来期は主力商品「環境紙G80」が諸事情により廃番となりさらに苦戦が予想されますが、後継商品の投入や商品値上げによる売上増など、リカバリーできる要素もあるので、引き続き目標達成に向けて努力を続けて参ります。

	2016年度	2017年度	2018年度
環境対応商品	27,575万円	27,448万円	27,438万円
前年比		99.54%	99.96%

当社基準による自社ブランドでの売上高です。

前年対比 -0.04%

6. 環境啓発活動

SDGs該当項目⇒



－オイスカ「子供の森」計画支援－

「子供の森」計画はこどもたち自身が、学校の敷地や隣接地で苗木を植え育てていく実践活動を通じて、「自然を愛する心」「緑を大切にする気持ち」を養いながら、地球の緑化を進めていこうという学校単位の新しい森づくり運動です。弊社製品の売上の一部を公益財団法人オイスカの進める「子供の森」計画に寄付しております。
(2018年度実績: 495,220円)



－WWF「南西諸島プロジェクト」支援－

WWFジャパンは、鹿児島県・沖縄県の島部である南西諸島全体の生態系保全を目的とした「南西諸島プロジェクト」(南西諸島エコリージョン)に取り組んでいます。
これまでの「しらほサンゴ村」支援と同様、南西諸島の生物多様性の保全のために「OAマルチケント紙 美彩紙」のメーカー売上高の1%を活動支援金として寄付しております。(2018年度実績: 341,863円)



NANSEIちゃん

特別天然記念物「アマミノクロウサギ」と沖縄近海の「アオサンゴ」をモチーフとした、弊社のオリジナルシンボルマーク・通称NANSEIちゃんです。「OAマルチケント紙 美彩紙」シリーズの商品パッケージに表記しております。



7. グリーン購入について

SDGs該当項目⇒



♣グリーン購入につきまして

文具販売業を営んでいるため、汚れによる販売不可商品やサンプル品なども日常積極的に使用しており、文具通販等からの購入がなく事務用品のグリーン購入は数値集計が難しく行なっておりません。以下の通りに意識的にグリーン購入を実施しております。

■OA機器類や電化製品などの購入の際には、右記の写真のように「エコマーク」や「Energy Star」が付いたものなどを積極購入

■印刷封筒類は古紙配合のものを使用

■コピー用紙はシーンによって、再生PPCを使用

■モノクロレーザープリンタには、再生トナー、再生ドラムを使用



8. 環境関連法規

法規・条例	業務における順守事項	評価	
環境基本法 都民の健康と安全を確保する環境に関する条例	■環境への負荷の低減の取組 ■自動車公害対策(アイドリングストップ)	○	遵守
廃棄物処理法 東京都廃棄物条例	■廃棄物処理業者の管理、分別廃棄の管理	○	遵守
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	■水銀を含む廃棄物に関しての対応	○	遵守
江東区清掃リサイクル条例	■事業系一般廃棄物に関して	○	遵守
港区廃棄物の処理及び再利用に関する条例	■事業者の責務・減量義務等	○	遵守
江東区環境基本条例	■第7条(事業者の責務)ほか	○	遵守
容器包装リサイクル法	■紙容器・プラスチック袋の使用状況の把握 ■商品包装への識別マーク表示 ■上記の包装資材の再商品化義務	○	遵守
家庭用品品質表示法	■障子紙が該当	○	遵守
下水道法	■日常使用の範囲	○	遵守
労働安全衛生規則	■電動フォークリフトの法定検査および自主検査	○	遵守
道路運送車両法	■自賠責・納税・走行ルール	○	遵守
自動車リサイクル法	■リース会社・販売会社に委託	○	遵守
家電リサイクル法	■指定産廃業者・リサイクル業者に廃棄委託・支払	○	遵守
小型家電リサイクル法	■指定産廃業者・リサイクル業者に廃棄委託・支払	○	遵守
資源有効利用促進法	■使用済みの事業系パソコンの排出	○	遵守
フロン排出抑制法	■設置のパッケージエアコン等の簡易点検	○	遵守

2019年6月現在

環境関連法規への違反、訴訟などの有無

環境関連法規に関する違反はありません。また訴訟についても事例がありません。
関係当局よりの違反の指摘は過去3年間ありません。

9. 中期環境経営目標設定（2019年度～2021年度）

実施事項	2018年度実績	2019年度目標	3カ年での中期目標
①-A 電力使用量	51,455kWh	<u>50,600kWh</u> 前年対比 -1.7%	2020年度 <u>49,800kWh</u> (対2018年度-3.2%) 2021年度 <u>49,000kWh</u> (対2018年度-4.7%)
①-B ガソリン使用量	5,062リットル	<u>4,960リットル</u> 前年対比 -2.0%	2020年度 <u>4,860リットル</u> (対2018年度-3.9%) 2021年度 <u>4,780リットル</u> (対2018年度-5.5%)
①-C CO2排出量(※)	32,064 kg	<u>31,500 kg</u> 前年対比 -1.8%	2020年度 <u>30,900 kg</u> (対2018年度-3.6%) 2021年度 <u>30,400 kg</u> (対2018年度-5.1%)
② 水使用量	211m3	<u>209m3</u> 前年対比 -0.9%	2020年度 <u>207m3</u> (対2018年度-1.8%) 2021年度 <u>205m3</u> (対2018年度-2.8%)
③-A 廃棄物の排出量 可燃ごみ・不燃ごみ（熱回収/埋立）	497.6kg	<u>485.0kg</u> 前年対比 -2.5%	2020年度 <u>470.0kg</u> (対2018年度-5.5%) 2021年度 <u>460.0kg</u> (対2018年度-7.5%)
③-B 廃棄物の排出量 プラ・古紙・ダンボール（再生）	4089.9kg	<u>3980.0kg</u> 前年対比 -2.7%	2020年度 <u>3880.0kg</u> (対2018年度-5.1%) 2021年度 <u>3780.0kg</u> (対2018年度-7.5%)
④ 環境対応商品売上高	27,438万円	<u>28,000万円</u> 前年対比 +2.0%	2020年度 <u>28,600万円</u> (対2018年度+4.2%) 2021年度 <u>29,200万円</u> (対2018年度+6.4%)
⑤ 従業員の環境意識向上	緑化推進・クールビズ・健康増進		

※使用排出係数：購入電力0.000475(t-CO₂/kWh)・ガソリン2.32166(kg-CO₂/l)

10. 代表者の総括

■代表者による総括と改善指示

【当該年度の総括】

今期は過去最高の売上を計上したものの、期中に生じた原材料・副資材等の高騰や輸送費の値上がりによるコスト増により、利益率が低下傾向にあります。そういった背景の中、環境経営によるエネルギー使用量削減はコスト増を抑える手段として大きなものとなっております。

さて、環境経営目標においては「Co2排出量削減」を継続的に達成しております。影響力が大きい電力使用量において、今期はもともと東陽センター内に作業室を新設したことによる空調・照明増設での消費電力の増加が見込まれており、目標値達成には厳しい状況だったことが記録からも読み取れます。

しかし、タイミングよく本社ビルの水道管直結工事が可能になり、そのことによって生じた揚水ポンプ使用電力の軽減効果が大きく「Co2排出量」も当初見込みより抑えることに繋がったようです。また店舗での照明やエアコン稼働の省エネ意識も含め、使用電力増加を抑制出来たことで経営的にも大変有効に働きました。

「環境対応商品の売上高アップ」の項目において、ここ数年再生古紙の不足が懸念材料となっております。当社においても、原紙に用いている再生上質紙の古紙配合率が引き下げられた影響で「環境紙シリーズ」の改廃を余儀なくされ、改変による客離れと一時的な欠品により売上にも影響を及ぼしました。

一方で小売部において新たな取組みとして「脱プラ(レジ袋ゼロ)活動」を実施して参ります。「廃棄物の排出量削減」にも間接的に寄与するものと考えております。

【次年度の見直しや改善指示】

「環境経営方針」「環境経営活動計画」「環境経営」については、次年度も変更なく継続して参ります。目標設定においては、東陽センターの「電力消費量」の目標値の見直しを環境活動責任者へ指示致しました。

「廃棄物排出量の削減」については、引き続きシステムの再検討をテーマとします。

2019年6月10日

代表取締役 横溝純一

紙から始めるコミュニケーション

株式会社 長門屋商店

<http://www.nagatoya.com>

編集者：環境管理責任者 佐竹 英幸

〒135-0016 東京都江東区東陽1-3-3

TEL 03-5690-7131

FAX 03-5690-8010